M-12　社会的要因及び空間的要因からみた児童の外遊びの実態と変遷

技術知マネジメント講座
加賀研究室　吉田　孝宏

近年、子供の外遊びの減少と、それに伴う子供の体力や社会性の低下が問題視されている。子供の外遊びが減少した要因としては、様々なものが指摘されており、都市化や自動車交通の発展による遊び空間の減少といった空間的要因やゲームの普及、習い事や塾の増加による遊び時間の減少、少子化・核家族化による遊び仲間の減少といった社会的要因などが挙げられている。しかし、具体的にどのような要因がどれくらい外遊びの減少に影響を与えているかについての検証は十分に行われていない。

外遊びに関する既往研究を整理すると、小学生と保護者を対象とした調査によって運動遊びや外遊びが減少傾向にあること、それがゲームの普及の影響によるものであることを指摘した研究や、同様の調査から現代の子供が広場や空き地で遊ばなくなっていること、それがテレビやインターネットの影響によるものであると指摘した研究、市街地環境の変化と子供の遊び場の変化を関連付け、土地利用変化と子供の外遊びの関係を示した研究などは存在する。しかし、子供の外遊びを規定する複数の要因の影響度を分析する研究や複数地域での調査を行い一般化や地域間比較を試みた研究はない。

以上のような背景を踏まえ本研究では、複数世代、複数地域における子供の遊び環境及び遊びの実態の変遷を把握すること、子供の外遊び量に影響を与えている社会的・空間的要因の影響度合いを明らかにすることを目的とし、そのために複数世代、複数地域を対象としたアンケート調査と分析を行った。

調査の結果、外遊びの実態・外遊び環境が世代とともに変化していることが確認され、特に祖父母−親世代間での変化よりも親−子供世代間での変化が顕著であることが明らかになった。子供の遊びは室内化し、遊びの仲間は少人数化、同年齢化していた。

また「一緒に遊ぶ仲間の多さ」と、「ゲームをやるかどうか」が外遊びの量に大きな影響を与えることが明らかになった。既往研究等においては特に習い事の増加による影響とゲーム・インターネットの普及による影響が指摘されているが、習い事について頻度・時間の世代ごとの増加は確認されたもの、外遊び量への直接的な影響はないことが明らかになった。遊び空間の量が異なると考えられる複数世代間で外遊びに関する比較を行い、遊び場所が変化していることも確認されたが、親世代が祖父母世代より多くの自然に触れ合っているなど、世代だけ、場所の量だけでは説明できない要素もみられるなど、空間的要因が相対的に影響力は小さいこともわかった。

以上の知見から子供の外遊びを増加させるためには闇雲に公園を作るなどといった打ち手は有効とはいえず、また習い事を減らすよりも、日頃の外出時間を延ばすような環境づくりが重要であるといえる。また、子供が多くの仲間たちと集まる機会を設けることで、子供の外遊びへの関心が強まり、外遊びへの意欲がさらに高まるだろう。